

仲良く、安全のための躰

特定非営利活動法人 聴導犬普及協会
訓練士 水越 みゆき

犬とは何か？

人・イヌ科・ネコ科など、種類が違えば、それぞれが持っている本能と習性も違います。その本能と習性をきちんと理解しなければ、お互いに食い違いが発生し、一緒に仲良く、安全に暮らすことができなくなってしまうのです。

犬は群れを作って生活します。そのため、人と一緒に生活することができ、家族を群れだと認識しています。昔から人の生活と深くかかわり、人のために本能と習性を利用して様々な役割を果たしてくれています。

その群れの中は、上下関係が常に存在し、上位の者は権勢本能をもって下位の者をコントロールし、下位の者は、上位の者に服従することにより群れの規律が保たれ、生活がきちんとまとまっていくのです。

そして、犬たちは群れを守り、また自分たちの縄張りも守ります。家族を守るために、侵入者に対して威嚇したり、吠えたりするなどの行動をとるのです。犬を飼うとおこなわれる散歩などは群れの移動であり、縄張りを確認するための作業にもなっているのです。



しつけとは何か？

しつけとは、人と生活するためのルール作りです。仲良く暮らすためには、群れの中できちんとしたルールを設けなければ、互いの生活が成り立たなくなってしまいます。そのルールは、人や家族によって様々で、どのように共に生活していきたいかの考え方なのです。例えば、吠えない・噛まない・トイレはきまった場所でなどは、人と生活するための最低限のルールで、どの家族も望むことです。また、中型犬や大型犬を飼う場合には、散歩のときに引っ張らないようにと望むはずですが、自宅を留守にすることがある家族は、お留守番が

できるようにと考えることでしょう。

私が普段訓練している聴導犬は、まさに人と犬の間にたくさんのルールを存在させています。レストランで食事をする際は、足元におとなしく伏せをしている。人の食べ物を欲しがらないなど、挙げたらきりが無いほどのルールがあるのです。その一つ一つを、長時間かけて犬と約束し、聴導犬としてのスペシャルな家庭犬を作っているのです。

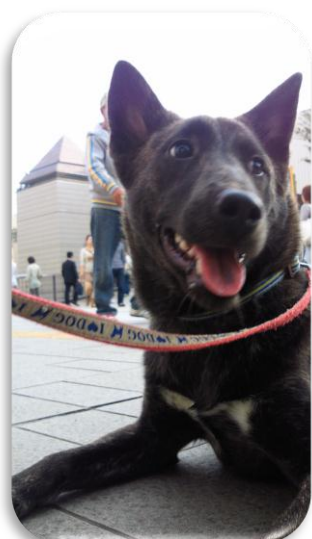


聴導犬のように細かいルール作りをする必要はありませんので、家族と犬の間にどのようなルールを設けるかを考え、仲良く暮らすための第一歩にしてください。

あなたの犬はどんな犬？

しつけをしていく上で、あなたの犬を理解することは必要不可欠です。本能と習性はどの犬にも共通することですので、どの程度の強さでその本能と習性をもっているのかを知る必要があります。そしてもう一つ、あなたの犬がどんな犬なのかを的確に知る必要があります。

愛犬家からしつけを依頼される際、あなたの犬はどんな犬ですか？と質問をしてみます。たいていの方は、落ち着きがない、良く吠える、いたずらをするなど、犬の行動を表す大きな答えしか返ってきません。



本当に知らなければならないのは、どんな時にどのように落ち着きがない行動をとるのか？ということ、どんな状況で良く吠えるのか？ということ、どんな時にどんなものをいたずらし、どのようにしてしまうのか？ということです。

そのため、好きなことや得意なこと・ものが何なのか、嫌いなことや苦手な事・ものは何なのかを、改めて考える必要があります。

例えば、人が好き（大好き）ぬいぐるみ・ボールなどのおもちゃが好き、食べること、遊ぶこと、寝ること、動くことが好き、小さな音にも敏感、大きな音（雷・花火）乗り物が嫌い、子供・男の人が嫌いなどです。

思いつく限りのことを上げていくと、言葉で説明するだけで、その犬の様子や性格、どの程度の強さで本能と習性をもっているのかなどがわかり、その犬の個体を理解できるようになります。また、問題だと思える行動が起こっている原因や、これから問題が起こらないようにするためにどのように生活していくべきなのかがわかってきます。そして、しつけの方法や犬に教えるべきルールが的確に判断できるようになるのです。

犬にとって安全な生活とは？

犬と仲良く暮らすためには、犬の安全な生活についても考えなければなりません。安全な生活が確約されていなければ、人にとって迷惑だと思われる行動を起こしてしまうことも多々あるのです。

そして、犬の安全は犬の個体をきちんと理解したうえで考えることです。そのため、犬の安全もその犬によって違うことを理解してください。

例えば、音に敏感で恐怖を示すような犬が、人の往来や車が頻繁に通る場所で外に繋がれて飼われた場合、安心して休むことができるでしょうか？ 大げさに言ってしまうえば、銃弾が飛び交う戦場のど真ん中で布団を敷いて寝るのと同じことです。もちろん、敏感な度合いや恐怖の度合いによって、おかれる状況は変わります。

動くことの好きな犬が、適度に動ける環境に置かれていたらどうでしょう。本当はきれいな体で居たいのに、シャンプーなどのお手入れをしてもらえなかったらどうでしょう。

犬にとっての安全を考えることも、怒っている問題を解決したり、問題を起こらないようにしたりするために考えなければならないしつけの一つに含まれてくるのです。



今回の震災から学ぶ必要な備え

今回の災害では、たくさんのペットも被災しています。そして、今現在も避難生活を余儀なくされているのです。

3月11日、私は事務所で一人仕事をしていました。事務所には、7頭の犬と、私が連れてきた猫が1頭。犬たちは、それぞれハウスの中でお昼寝中。猫は、ラックの上の所定の位置でお昼寝中でした。家には、犬が1頭でサークルの中でお留守番。普段はハウスでお留守番させているのですが、この日だけは、なぜかサークルの中に置いてきていました。今でも後悔しています。なぜ、普段通りにハウスでお留守番させなかったのかと。

地震発生時、犬たちは、どんなに揺れが強くても、いつも通りお昼寝の体制のまま誰も動きません。5分揺れ続けても、10分揺れ続けても、ずっと変わらず寝ています。それだけ安心できる場所なのだと、ハウス飼いの利点を大きく感じた瞬間です。

そして、自宅の犬は、震災後に揺れや緊急地震速報にパニックを起こすようになっていました。何とか半年後には多少の揺れでも落ち着いていられるようにはなりましたが、トラウマを抱えてしまった



ことは、間違いありません。これは、私の責任です。

避難生活を余儀なくされたペットたちは、ハウス生活をしてきた経験はほとんどないでしょう。震災で環境が変わるストレスを抱え、たくさんの犬たちとの共同生活でストレスを抱え、ハウス生活でストレスを抱え、しかも全て一気に押し寄せてきています。ハウス生活を普段から実施していれば、人と一緒に避難できる道も必ずあったはずです。

ハウスは、狭い穴倉で寝る犬の習性を利用した、安全で安心できる居住スペースです。侵入者もない、守るスペースも小さい、囲まれているので落ち着けると言う犬側のメリットと、どこにでも持ち運べるので移動できるという人側のメリットがあります。

そして、しつけの道具として、問題行動を起こらないようにしたり、問題行動を解決したりするために、とても有効活用できるものです。ぜひ、今回の震災を機にハウス飼いの習慣をつけるようにしてください。

聴導犬について

聴導犬は、身体障害者補助犬の一つで、聴覚障がい者の日常生活をサポートしています。候補犬は、動物愛護センターなどの施設から、聴導犬としての適性の有無を確認し、導入されているので、雑種の犬たちが聴導犬になっています。

現在、30頭の聴導犬が障がい者と共に生活し、社会参加の手助けを行っています。



詳細は、(特非)聴導犬普及協会 HP <http://www.hearingdogjp.org>にてご確認ください。

プロフィール

公認訓練士 水越 みゆき

生年月日 昭和52年1月14日

住所 埼玉県ふじみ野市亀久保 2201-5

経歴

- | | |
|---------|--|
| 平成7年3月 | 宮城県利府高等学校 卒業 |
| 4月 | (株)オールドッグセンター附属 日本訓練士養成学校 入学 |
| 平成9年3月 | (株)オールドッグセンター附属 日本訓練士養成学校 卒業 公認訓練士資格取得 (ジャパンケネルクラブ) |
| 4月 | (株)オールドッグセンター 入社 家庭犬・警察犬・聴導犬の訓練を開始 |
| 平成16年3月 | (株)オールドッグセンター 退社 現在までに10頭の聴導犬を育成(内5頭は障害者の方へ) |
| 4月 | 特定非営利活動法人聴導犬普及協会 所属 訓練士 |

横浜市リハビリテーション事業団 認定審査委員
名古屋市リハビリテーション事業団 認定審査委員
埼玉県動物愛護推進委員 埼玉県動物愛護ボランティア